

氏名	渡 辺 正 朝		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	博乙第 1892 号		
学 位 授 与 の 日 付	昭和 63 年 3 月 31 日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学 位 論 文 題 目	胃癌患者における胃組織カテプシン B と L 活性—病理学的所見との関連性		
論 文 審 査 委 員	教授 赤木忠厚	教授 木村郁郎	教授 太田善介

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

カテプシン B と L が胃癌の浸潤や転移に関与しているか否かを知る目的で、胃癌患者の切除胃標本を用い、癌部と非癌部の酵素活性を測定し、さらに組織所見との関連性を検討した。胃癌 29 例を対象として、癌辺縁部、肉眼的境界部及び非癌部の癌組織と胃粘膜を採取し、東らの方法に準じて酵素活性を測定した。B と L に対する基質として、それぞれ Z-Arg-Arg-NMec と Z-Phe-Arg-NMec を用いた。酵素活性は特異的阻害剤である Leupeptin で完全に抑制され、また、含有蛋白量にして 40 μ g まで蛋白量に dependent であった。非癌部胃粘膜に対し、癌辺縁部癌組織の B と L 活性はともに平均 3 倍以上高く、活性比（癌辺縁部癌組織の酵素活性／非癌部胃粘膜の酵素活性）と組織所見との関係をみると、特に B 活性は、管状腺癌に比し低分化腺癌、予後的漿膜面因子陰性群に比し陽性群、また、リンパ節転移のない群に比し n_2 (+) あるいは n_3 (+) まで転移した症例で高かった。両酵素ともに癌病巣の径の増大に伴い必ずしも活性比の増大を認めなかった。組織所見との関連より、ヒト胃癌、特に低分化腺癌において、胃壁内への浸潤やリンパ節転移に B が強く関与していると考えられた。これは胃癌の臨床病理学的統計結果とも一致しており、癌組織の酵素活性の高い症例では治癒切除に際し、より広範なリンパ節郭清が必要であることが示唆された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は胃癌患者胃組織におけるカテプシン B と L 活性と病理学的所見の関連性について研究したもので、癌組織は非癌部より活性が高いこと、カテプシン B 活性は胃癌細胞の胃壁内浸潤やリンパ節転移に強く関与していることを明らかにしており、価値ある業績であると認める。よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。